

今年の冬は極端な少雪でしたが、例年ですと桜の咲く頃から新潟では乾燥した晴天の日がつづき、融雪で泥濘んでいた圃場も乾燥しトラクター等の作業も順調にできるのですが、今年は4月に入っても太陽の出る日が少なく圃場が乾燥しなかったため、肥料まき、耕耘等の作業が遅れ、4月末までかかってしまいました。

昔は全ての作業が手作業だったことから、妙高山の中腹に雪消え時に現れる残雪模様の「跳ね馬」が見られるのを待って、春の農作業を始める目安としていましたが、今日では機械化が進んだことから「跳ね馬」が現れるまでには耕耘等の作業が終了し、「跳ね馬」を見て田植え作業の準備をすることとしています。

15cm程に生長した苗



妙高山に現れた跳ね馬



トラクターによる肥料のすき込み



今年も、ミネラル米の土壌改良材マインマグ、ケイ酸、ゆうき元気、米糠等の肥料を耕耘前にトラクターで圃場にすき込み、その後耕耘をおこないました。苗作りのビニールハウス内では、HB-101 やウットンマイスターを散布し早めの外気温に慣れさせたこともあり、根張りのよい、丈夫な苗が育ちました。

代掻き作業は、5月1日から始め全ての圃場を2交代掻きを行い、圃場の安定を待って5月7～8日で田植えを行いました。今年は例年と違い5月中のイベントが全て中止になったことから、余裕を持って田植え作業ができました。

トラクターでの耕耘



トラクターでの代掻き



田植機に苗の供給



今年も2人の孫が田植え作業を手伝ってくれたので2日間で終了し、田植機の清掃整備や、苗ハウスの取り壊し、苗場箱の洗浄作業も予定どおり終了し取りあえずホッとしています。

孫「香苗ちゃん」の初めての田植機新運転



田植機での田植え作業



孫2人による苗箱の洗浄

メグスリノキってどんな木？？？・・・

メグスリノキは、東北地方（山形、宮城県）から九州までの山中に自生している、カエデ科の落葉高木で、我が国特産の樹木です。
したがって、漢名はなく和名でメグスリノキ（目薬の木）と称されており、地方名俗名としては長者の木、千里眼の木、三つ葉楓等ともよばれています。学名はAcer nikoense Maxim です。

和名の語源は、昔から山村では「外傷性の眼の傷」や「ものもらい」ができた場合にこの木の枝や樹皮を煎じた液で洗眼したり、初老になると起こる「かすみ眼」や「眼の疲労」等にはこの液を飲んで治していたことから、誰言うことなくこの木のことを「目薬の木」とよぶようになりました。このようなことから和名もそのまま「**メグスリノキ（目薬の木）**」と命名されたといわれています。

「眼の疲労」等に飲用して効果があったのは、中国の古典「素問」「靈樞」に「肝気は目に通ず、肝和すれば、目よく五色を弁ず」とあるように、この木に含まれる成分に肝臓を活性化させる成分があり、目にも効果があったものと思われます。

春の緑葉



緑葉

秋の紅葉



紅葉

種子



この木は妙高山麓～笹ヶ峰にかけも自生し秋には鮮やかな紅葉が見られます。この木から生産した、お茶、煎餅、飴、うどん、ドリンク剤等を販売していますので、ご利用ください。

弊社は、製品の均一性を高めるため原材料のメグスリノキは全て自家山林等に植林した木を使い、天然のメグスリノキは使用していません。

今年のニンニク生育状況（黒ニンニクの元）



目薬の木の種子



4月から地元妙高市の朝市に出店



今年も、小規模ですがニンニク栽培に挑戦しています。妙高産の黒ニンニクを楽しみにしててください。新型コロナの関係でこれまでのイベントが全て中止になったことから、地元の朝市に出店を始めました。